

# Annual Report

2021.04-2022.03

## WaterAid JAPAN

A world where everyone,  
everywhere has  
sustainable and safe water,  
sanitation and hygiene.





WaterAid

特定非営利活動法人  
ウォーターエイドジャパン  
年次報告書 2021.04-2022.03

## Contents

- 1 目次 / ウォーターエイドのビジョン・ミッション・価値観
- 3 ウォーターエイドの活動国と2021年度実績
- 5 水・衛生を重視する理由
- 7 ウォーターエイドの新グローバル戦略
- 9 活動紹介:新型コロナウイルス感染症対応
- 11 活動紹介:JICAとの協働調査
- 13 活動紹介:インド
- 15 活動紹介:マダガスカル
- 17 日本の活動
- 19 企業・団体との連携
- 21 2020年度会計報告
- 22 ウォーターエイドジャパンについて

持続可能で安全な水、トイレ、衛生習慣がなければ、誰も健康で、そして安心して生活を送ることはできません。この3つは日常生活の一部になっているはずのようですが、現実はそうではありません。

ウォーターエイドは、1981年にイギリスで設立され、40年間にわたって、水・衛生分野に特化して活動してきた国際NGOです。水・衛生分野の専門性を活かし、貧困層や取り残されがちな人々が清潔な水とトイレを利用できるよう、手洗いなどの衛生習慣を実践できるよう、現地に最も適した解決策を実行しています。

### ● ウォーターエイドのビジョン

すべての人が、すべての場所で、安全で持続可能な水と衛生設備を利用し、衛生習慣を実践できる世界

### ● ウォーターエイドのミッション

持続可能で安全な水、衛生設備、衛生習慣を届けることで、人々の暮らしを変えること

### ● ウォーターエイドの価値観

ウォーターエイドの組織文化を明確にし、世界各国で活動するウォーターエイドをひとつにまとめているのが、この価値観です。ウォーターエイドがどのような団体であり、どのような活動を、どのような方法で行うのかという、ウォーターエイドの本質がこの価値観に表現されています。

#### ▶ Respect

尊重:より公正な世界を実現するために、すべての人に尊厳と敬意をもって接し、人々の権利と発言を守り、尊重します。

#### ▶ Accountability

説明責任:ウォーターエイドがともに活動する人々、支援者に対し、説明責任を果たします。

#### ▶ Courage

勇気:活動及び情報発信において大胆かつインスパイアリングであり、ミッションを追求するための決意に妥協しません。

#### ▶ Collaboration

協働:共通目標の追求のため、あらゆるステークホルダーと協力することで、その効果を最大化します。また、多様性や違いを尊重します。

#### ▶ Innovation

革新:創造性と俊敏性を備え、常に学び、社会変化を加速させるために挑戦することを恐れません。

#### ▶ Integrity

誠実:誠実さと信念をもって、平等と人権を尊重し、開かれた活動をおこないます。

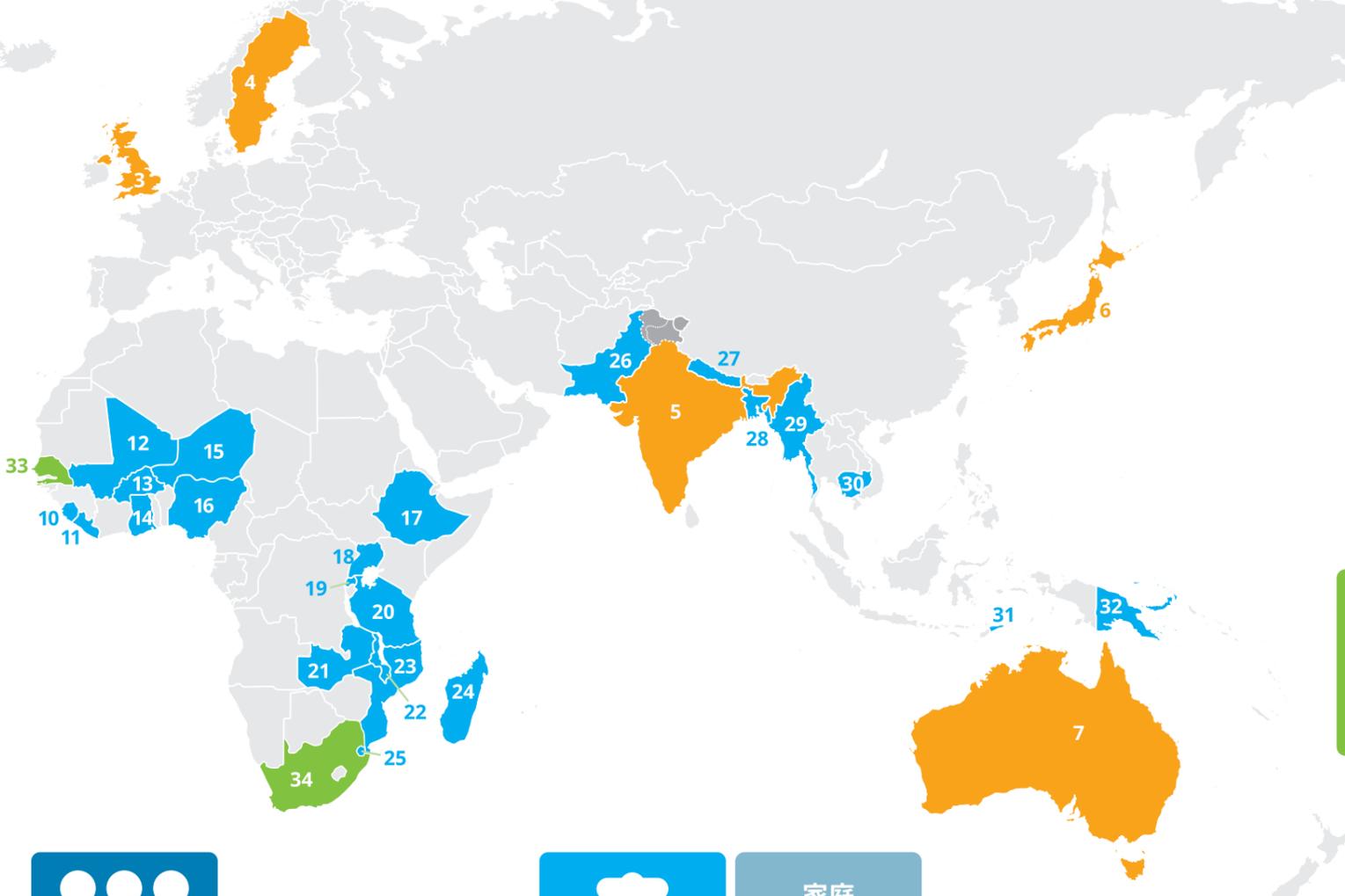
#### セーフガーディングへの取り組み

ウォーターエイドは、コミュニティ、スタッフ、ボランティア、パートナー団体を含むすべての人のセーフガーディングとウェルビーイングの推進に取り組んでいます。世界のどこで活動しようとも、差別、虐待、搾取、ハラスメントを含む不適切な行動を一切許しません。



WaterAid/ DRIK/ Habibur Haque

# ウォーターエイドの活動国と 2021年度実績



## ●メンバー国

- 1 カナダ
- 2 アメリカ
- 3 イギリス
- 4 スウェーデン
- 5 インド
- 6 日本
- 7 オーストラリア

## ●プログラム実施国

- 8 ニカラグア
- 9 コロンビア
- 10 シエラレオネ
- 11 リベリア
- 12 マリ
- 13 ブルキナファソ
- 14 ガーナ
- 15 ニジェール
- 16 ナイジェリア
- 17 エチオピア
- 18 ウガンダ
- 19 ルワンダ
- 20 タンザニア
- 21 ザンビア
- 22 マラウイ
- 23 モザンビーク
- 24 マダガスカル
- 25 エスワティニ
- 26 パキスタン
- 27 ネパール
- 28 バングラデシュ
- 29 ミャンマー
- 30 カンボジア
- 31 東ティモール
- 32 パプアニューギニア

## ●地域事務所

- 33 セネガル
- 34 南アフリカ



に衛生的なトイレを届けました



に清潔な水を届けました



が正しい衛生習慣を実践できるようになりました

(注)  
 ●数字は2021年4月1日から2022年3月31日までの間に、ウォーターエイドまたはそのパートナーが直接、支援を届けた人数。  
 ●家庭に関する人数は、自宅または自宅の近くで、それらを利用できる人数。学校に関する人数は、児童・生徒数および職員の数。保健医療施設に関する人数は、1年間の患者の総数と職員数。  
 ●衛生習慣を実践できるようになった人数は、改善された設備を利用、または少なくとも年に3回以上、行動変容のための活動に参加した人の合計数。  
 ●ウォーターエイドの働きかけの結果による法改正や、行動の変化、関連知識の蓄積などによる効果は、より大きいものの、この数字には含めていない。

## 水・衛生を重視する理由



多くの皆さまが継続的に世界の水・衛生問題に関心を向けてくださったことによって、2000年以降、20億人以上が清潔な水を、27億人がトイレを利用できるようになりました。

一方、気候変動や人口増加、都市化といったさまざまな要因から、現在もまだ清潔な水とトイレを利用できない人々が大勢います。

7億7,100万人



7億7,100万人が清潔な水を利用できません。

17億人



17億人が適切なトイレを利用できません。そのうち4億9,400万人は野外で排泄するしかない状況に置かれています。

30%



世界の人口の30%は、家庭で水と石けんを使って手洗いをすることができません。

## 水・衛生はSDGs達成のカギ

2015年、国連加盟国は「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」に合意しました。その中のゴール6「安全な水とトイレを世界中に」は、他のゴールともっとも結びつきの深いゴールのひとつです。水・衛生へのアクセスが改善されることによって、栄養、保健、教育、ジェンダーなどの目標達成も促されます。

3 すべての人に健康と福祉を



### すべての人に健康と福祉を

後発開発途上国の保健医療施設の半数では清潔な水を使うことができません。世界の保健医療施設の3分の1には石けんと水が備わった手洗い設備がありません。そのような病院で出産した場合、女性と新生児の命は危険にさらされます。保健医療施設で清潔な水を確保することは、病気の感染を広げないためにも、医療従事者が安心して医療サービスに従事するためにも不可欠です。

4 質の高い教育をみんなに



### 質の高い教育をみんなに

世界の31%の学校では、清潔な水を利用することができません。喉が渇いても水が飲めず、衛生状態を保つことも困難です。男女別のトイレがなければ、女子生徒は月経期間中、学校に通えません。授業についていけなくなって中退することもあります。学校に水とトイレがあれば、子供たちは安心して勉強を続けることができ、将来の可能性が広がります。

13 気候変動に具体的な対策を



### 気候変動に具体的な対策を

気候変動の影響により、世界各地で干ばつや洪水、サイクロンなどが頻発しています。干ばつで井戸が干上がると、人々は普段より遠くまで水くみに行かなければなりません。給水インフラやトイレが整備されていない地域で洪水が発生すると、水源が汚染され、コレラなどの病気がまん延するおそれがあります。

## 水・衛生が開発途上国の経済に数兆ドルをもたらす

2021年7月、ウォーターエイドは、Vivid Economics社と共同で実施した水・衛生と経済損失に関する調査の結果を発表。すべての人が清潔な水とトイレを利用し、衛生行動を実践できるようになると、今後20年間で開発途上国の経済が数兆ドル規模で改善されることが明らかになりました。水・衛生は非常に費用対効果の高い「投資」と言えます。

水・衛生へのアクセスを可能にすることで、2021年から2040年の間に生み出される年換算の純利益(米ドル)

基本的な水

320億ドル

安全に管理された水

370億ドル

基本的な手洗い設備

450億ドル

基本的な衛生設備(トイレ)

650億ドル

安全に管理された衛生設備(トイレ)

860億ドル

Note: The area of each circle corresponds with the magnitude of annualised net benefits from 2021-2040. Source: Vivid Economics



すべての人が基本的な給水設備とトイレを利用し、清潔な水と石けんを使って手洗いすることが可能になれば、それを実現するためにかかる費用の最大21倍のリターンが得られます。



すべての人が自宅で安全な水を得られるようになると、人々の健康が促進されるうえ、女性・女の子たちが水くみの代わりに教育や収入を得る活動に時間を使うことが可能になるため、毎年370億ドルを生み出すことができます。



すべて人が適切なトイレ(排せつ物が安全に処理されるトイレ)を利用できるようになると、2021年から2040年の間に60億件の下痢性疾患と120億件の寄生虫症の発生を防ぐことが可能となり、生産性の向上や医療費の削減等によって、毎年860億ドルを生み出すことができます。



コミュニティに給水設備を設置することによって、世界中の女性や女の子が現在水くみに費やしている年間合計7700万日に相当する時間を解放することができます。水くみから解放されれば、女性や女の子たちは教育や収入を得るための活動にその時間を使うことが可能になります。



水・衛生インフラを洪水から守ることは、世界でもっとも脆弱な人々を気候変動の影響から守る最善の方法のひとつです。水・衛生インフラを洪水に対してレジリエントにするための施策に1ドル投じることによって、洪水で破壊されるインフラの修復費用62ドルの支出を回避することができ、命を脅かすおそれのある飲料水源の汚染も防ぐことができます。

# ウォーターエイドの新グローバル戦略

## すべての場所で、すべての人のために、水と衛生の危機を終わらせる

2022年2月、ウォーターエイドは今後10年間の活動指針となる「グローバル戦略2022-2032」を発表しました。水・衛生の危機を永久に終わらせ、「すべての人がすべての場所で、安全で持続可能な水と衛生設備を利用し、衛生習慣を実践できる世界」というビジョンを実現するために、ウォーターエイドは飛躍的な改善を促す4つの目標(右ページ)に重点を置いて活動していきます。

### ● 水・衛生のしくみを作る

給水設備やトイレを設置したり、衛生教育を実施したりしても、その時だけの取り組みで終わってしまうプロジェクトでは、改善の効果を持続させることはできません。国・地域の政府、水・衛生関係機関、民間企業が地域の水・衛生の改善に継続的に取り組んでいないために、給水設備やトイレが故障して使えなくなった、衛生習慣が普及しても長続きしなかったといったことが各地で発生しています。

「どこに給水設備があり、どれが稼働していて、どれが壊れているのかを誰も把握していないため、政府が地域の水・衛生を改善しようにも、どこから着手すればよいかわからない」

「政府が新設した給水システムの維持管理を担当する民間事業者が、きちんと水道料金を徴収して電気代を納めなかったため、電気の供給が止まり、給水システムも止まってしまった」

これらは、ウォーターエイドが活動する地域で起きている問題の一部です。

このようにウォーターエイドが活動する地域には、「すべての人が清潔な水とトイレを利用し、衛生習慣を実践すること」を阻む数々の課題があります。ウォーターエイドは各地で経験したさまざまな課題を分析・体系化して、持続可能な水・衛生サービスに必要なしくみを構成する「要素」をまとめました。

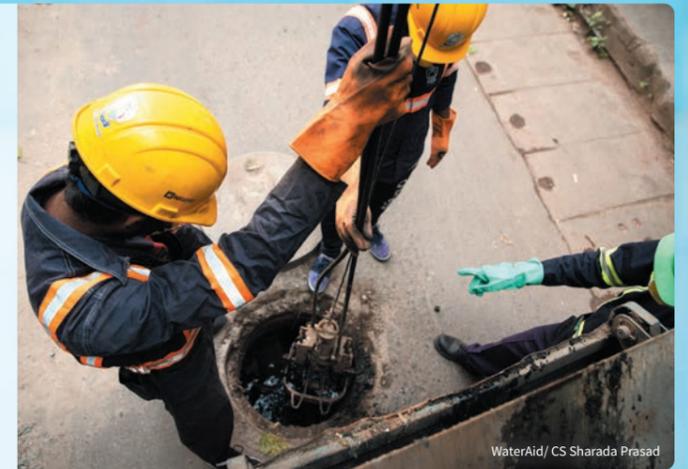


ウォーターエイドは、現地政府、水・衛生関係機関、NGOなどと連携しながら、これらのどの要素が欠けているかを分析し、その要素に重点的に取り組むことで、各地域ですべての人が清潔な水とトイレを利用し、衛生習慣を実践できる社会を実現するためのしくみを作っていきます。

### Universal Access

#### 重点対象地域ですべての人が水・トイレを利用できるようにする

ウォーターエイドは、重点対象となる県・郡や町を特定し、政府や民間企業、NGOなど他のアクターと協力しながら、その地域に安全な水・衛生サービスを提供するしくみ・システムを強化します。その地域全体で、「すべての人に水・衛生を」を実現するのに障壁となっている課題を見つけ、その障壁を解消するためのプロジェクトを設計します。この取り組みから生まれた事例をモデルケースとして現地政府等に共有し、他の地域でも同様の取り組みが行われるよう働きかけます。



WaterAid / CS Sharada Prasad

### Health

#### 水・衛生を通じて公衆衛生を改善する

現在、世界で18億人の人々が清潔な水のない保健医療施設を利用しています。保健医療施設で給水・衛生設備を利用できなければ、ウォーターエイドのビジョンは実現できません。ウォーターエイドは、特定の保健医療施設で清潔な水とトイレを利用できるようにするだけでなく、その事例をモデルケースとして、より広範に保健医療施設の水・衛生への取り組みを強化するよう政府や国際社会に働きかけます。また、手洗いなどの衛生習慣の促進も、公衆衛生にとって不可欠です。ウォーターエイドは各国の保健省などと連携し、衛生習慣を促進する効果的な方法を設計して実践します。



WaterAid / Remissa Mak

### Climate Change

#### 気候変動に対する水・衛生のレジリエンスを強化する

ウォーターエイドはコミュニティと協力して、洪水や豪雨、干ばつなどが起きても機能する設計の給水設備とトイレを広め、コミュニティが不確かな未来から自分たちを守ることができるようにします。また気候変動に対するコミュニティのレジリエンスを高めるために、水・衛生が不可欠であることを広く発信していきます。



WaterAid / Basile Ouedraogo

### Finance

#### 水・衛生向け資金の量と質を向上させる

水・衛生の進捗を妨げている主な要因のひとつは、水・衛生向け資金が不足していたり、用途が適切でなかったりすることです。ウォーターエイドのビジョンを実現するためには、水・衛生向け資金を量・質ともに向上させることが不可欠です。ウォーターエイドは、政府や公共・民間の金融機関などに重点を置いて、予算等のデータ収集・分析を行いながら、水・衛生向け資金の量と透明性を向上させるよう提言していきます。



WaterAid / Joey Lawrence

## 活動紹介①

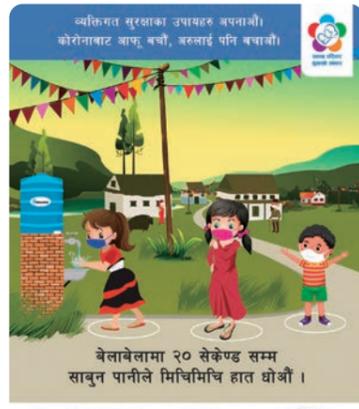
# 新型コロナウイルス感染症の対応を継続



### ● 衛生習慣の促進を継続

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月にはじめて確認されてから瞬く間に感染が拡大し、世界中の人々の命と健康、生活、経済、社会活動に甚大な被害を与えています。ウォーターエイドは長年の経験と専門性を活かし、2020年3月頃から新型コロナウイルス感染症対応の活動として、手洗い設備の設置に加え、石けんを使った手洗い、咳・くしゃみの飛沫防止、公共の場でのマスク着用、人が手を触れる場所の消毒、対人距離の確保といった主な衛生習慣の促進に力を注いできました。

いくつかの国では、コロナ前から実施していた衛生習慣促進プログラムに、ビデオやイラストなどの新しい広報・啓発素材を開発して導入するという方法をとりました。ネパールでは、フリップチャートを更新したり、ステッカーを配布したりしたほか、以前から予防接種との連携で実施していた衛生プログラムに取り入れるための新しい広報素材を作成しました。他の国々では、従来の衛生習慣促進プログラムを改訂するだけでなく、政府による衛生習慣への取り組みを強化する機会ととらえ、政府関連の部署や委員会の機能を強化し、政府や衛生促進ボランティアのスキルを高める支援を実施しました。



ウォーターエイドが英国政府とユニリーバが資金拠出した「衛生習慣を変えるためのプロジェクト (Hygiene Behaviour Change Coalition project: HBCC)」の協力を得て制作したポスター(ネパール)

### ● インドにおける緊急対応

2021年度は、デルタ株やオミクロン株など、変異株が各地で大流行した年でもありました。2021年3月～4月には、インドでデルタ株による第二波が発生。このインドの第二波は、第一波とは異なり、都市部だけでなく、保健サービスが十分に整っていない農村部でも感染が広がっていることが考えられたものの、農村部では検査体制が不十分なため、実態はわからないままでした。ウォーターエイドはインドのこのような状況を受けて、水・衛生専門の団体としてどのような活動を実施して状況改善に貢献すべきかを検討し、①保健医療施設の給水・手洗い設備の設置・修復、②水不足の地域への緊急的な水の供給、③衛生作業員の支援の3分野で緊急支援を実施しました。

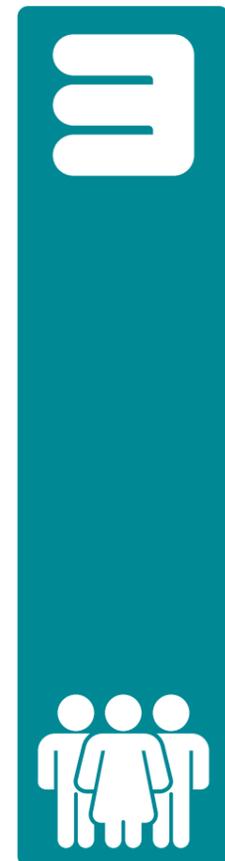
### 保健医療施設の給水・手洗い設備の設置・修復

インドの農村部では、保健医療施設が新型コロナウイルス感染症に対して十分な備えができていなかったこと、そして保健医療施設の水・衛生インフラが十分に整備されていなかったこともあって、新型コロナウイルスの感染者数急増に対応することが困難な状況にありました。

ウォーターエイドはインドの状況を把握するために、2021年1月、活動する地域の保健医療施設の給水設備とトイレ、手洗い設備の状況について調査しました。その結果、インド南部のアンドラ・プラデシュ州では、敷地内に給水設備がある保健医療施設はわずか15%であることがわかりました。ウォーターエイドがインドで調査した保健医療施設全体を見ても、治療する場所に水を使える手洗い設備がある施設は37%、石けんまたはアルコールがある施設は43%にとどまりました。



保健医療施設に設置した手洗い設備(西ベンガル州バンクラ県)



ウォーターエイドはこれらの結果をふまえ、20県56か所の保健医療施設で、給水設備と手洗い場の設置、トイレの改修、そして新型コロナウイルス感染症患者の治療に使用した廃棄物を安全に処理するための廃棄物処理設備の整備を実施しました。



保健医療施設の改修したトイレ(ウツタル・プラデシュ州ラクナウ県)

### 水不足の地域への緊急的な給水

近年、インドの水不足は深刻化しており、特に夏になると深刻な水不足に陥る地域が多くあります。十分な量の清潔な水を確保することができなければ、人々は限られた量の水を飲用や調理用を使うことを優先し、手洗いに水を使うことを断念せざるを得ません。

ウォーターエイドは、活動地域のなかでも水不足が深刻な5州を対象に、人々が夏の間、飲用や調理用、手洗いに必要な水を確保できるよう、水があるところから給水車で水を運んで配る緊急給水を実施しました。また、中長期的な解決策として、既存の給水システムの改修・修理、他の水源(地下水、表流水など)から水を確保する給水設備の設置、貯水システムの設置など、給水設備の拡充に取り組みました。



緊急給水の様子(アンドラ・プラデシュ州チットール県)

これらの活動によって、5つの州の15県142村で7万4,533人の人々が清潔な水を利用することが可能になりました。

### インフォーマルな衛生作業員 (sanitation worker) を対象とした支援

「マニュアルスカベンジング」は、汲み取り式トイレの汲み取り作業を、適切な用具なしに手作業で行う仕事です。インドでは、マニュアルスカベンジングは法律で禁止されていますが、実際には多くの貧困層、特に女性が、現在もこの仕事に従事しています。機材や防護服などの安全対策もないまま、ときに人間の排泄物に直接接触しながら作業し、さまざまな健康被害や病気の危険にさらされてきました。

多くの市や自治体が、このような作業員の存在を否定していますが、ウォーターエイドが2年間にわたって実施した調査では、何千人ものマニュアルスカベンジング従事者がいることが明らかになりました。また、インドには、インフォーマルなごみ拾い従事者も約400万人いると言われています。

マニュアルスカベンジングやごみの回収に従事する人々は、コロナ前から脆弱な立場に置かれていました。そしてコロナ拡大以降、人間の排泄物や廃棄物に直接接触することの多いこれらの人々は、高い感染リスクにさらされています。しかも、感染を恐れる人々がトイレの汲み取りやごみ回収を利用しなくなった結果、またロックダウンで外出自体ができなくなった結果、このような人々は仕事を失い、困窮をきわめています。

ウォーターエイドはこれまでも手作業での汲み取りやごみ拾いに従事する人々を支援してきましたが、こうした人々がコロナによって必需品も購入できないほど困窮している状況を鑑み、2111世帯(バンガロール1750世帯、デリー361世帯)に対し、1世帯あたり合計6000ルピーの支援金を給付し、人々がパンデミック時の必需品を購入できるようにしました。

給付後は、外部機関「Change Scape」によって、新型コロナウイルス感染症がインフォーマルな衛生作業員に与える影響、特に所得と健康状態を把握するための迅速な評価が行われました。これにより、給付された支援金でどのようなニーズが優先的に満たされたかが明らかになりました。



給付金を受領したごみ回収に従事する人にヒヤリングする外部機関のメンバー

## 活動紹介②

# JICAとの協働調査

「国際NGOとの連携による学校・保健施設の衛生行動改善に関する情報収集・確認調査」開始



2021年9月、ウォーターエイドは独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携し、「国際NGOとの連携による学校・保健施設の衛生行動改善に関する情報収集・確認調査」を開始しました。この調査はタンザニア、マダガスカル、ネパールの3か国で実施。2年半の間に、パイロット活動を通して学校と保健医療施設における衛生行動の現状を把握し、衛生行動の改善に関する知見や知識をまとめ、今後活かすことを目指します。

ウォーターエイドとJICAは、ネパールのシラハ郡、マダガスカルのアナラマンガ県、タンザニアのキサラウエ県を対象地域として選定。対象地域の学校75校、保健医療施設45か所において、「石けんと水を備えた手洗い設備の整備（必要に応じて給水設備やトイレも新設・整備）」、「手洗いなどの衛生習慣の改善促進」を試験的に実施します。特に衛生習慣の改善については、ウォーターエイドが開発した「ABCDEアプローチ」を導入。これは Assess（人々の衛生行動の現状についてわかっていることを整理）→Build（わかっている点についてデータ収集）→Create（人々が衛生行動を変えるための創造的な参加型キャンペーンや啓発ツールを企画）→Deliver（衛生キャンペーンを実施）→Evaluate（想定した衛生行動の変化が達成されたかを評価し、次の取り組みに反映）というステップを通して、衛生に関する人々の行動を変えていくアプローチです。具体的には、手洗いをする動機に焦点を当てる、ナッジを取り入れるといったユニークな方法を用い、人々が手洗いなどの衛生行動を実践していくよう促します。そのうえで、こうした取り組みの前と後で、保健医療施設のスタッフや学校に通う生徒たちの衛生習慣がどのように変わったかを調査し、今後の衛生習慣促進の取り組みに活かしていくことを目指します。

初年度の2021年には、パイロット活動の詳細設計、3か国の学校と保健医療施設の水・衛生に関する状況調査、対象となる学校と保健医療施設の選定、そして現地政府や現地パートナー団体とのキックオフミーティングを進めました。

対象施設の選定にあたっては、公立の学校と保健医療施設を対象とすることを基本とし、加えて、水・衛生サービスの状況、校長や病院長のコミットメントなどを基準に選定しました。政府とウォーターエイドのスタッフからなるチームを立ち上げ、政府が候補に挙げた施設すべてを訪問したうえで、ネパールから学校15校・保健医療施設15か所、タンザニアから学校30校と保健医療施設15か所、マダガスカルから学校30校と保健医療施設15か所を選定。政府や他のステークホルダーによる承認を得て、対象とする学校・保健医療施設を決定しました。



Govind Subedi

2021年10月から2022年3月にかけて、対象国3か国で関係者や政府などが参加する「導入ミーティング」を実施し、本調査及びパイロット活動の目的や計画についての理解を共有しました。

導入ミーティング(ネパール)



対象施設に選定されたアンタタモクリー小学校(マダガスカル)



並行して、学校と保健医療施設の水・衛生インフラ改修工事の設計や衛生習慣促進活動の計画立案に必要な情報を得るため、学校・保健医療施設の水・衛生に関するプレ調査を実施。どのような施設建設・修繕が必要か、手洗い習慣の定着に向けて何が障壁となっているか、何がモチベーションとなるか、といったことを調査しました。下記はその調査結果の概要です。

## ●マダガスカル

調査対象の学校のうち約半数において、故障などが原因で調査時に給水設備を利用することができず、4分の1の学校には利用できる状態のトイレがありませんでした。半数以上の学校には水と石けんを備えた手洗い設備がなく、手洗い設備があったとしても、井戸が故障中などの理由で常に水が使える状態ではありませんでした。保健医療施設については、大部分で水道が利用でき、すべての保健医療施設に1基以上のトイレがあったものの、74%の施設では、治療する部屋やトイレに手洗い設備が設置されていませんでした。学校では、トイレの後に石けんで手を洗っていない生徒も見受けられ、手洗いをしない場合の主な理由は「手を洗うのを忘れる」とのことでした。保健医療施設の医療従事者は、手洗いすべきタイミングを理解しているものの、それを実践しているとは限らず、実践しない理由として「水がない」ことが挙げられました。



WaterAid/ Mamy Ramparany

学校で子供たちの衛生行動を観察するスタッフ(マダガスカル)

## ●ネパール

調査した学校の給水設備のうち74%が利用可能でしたが、水質は非常に悪いものでした。どの学校にも水と石けんが備わった手洗い設備がなく、調査の時点では27%の学校が手洗い場で水を利用できませんでした。保健医療施設では20%に給水設備がなく、多くの施設ではトイレや治療する部屋に手洗い設備がありませんでした。衛生習慣に関しては、学校で排せつ後に石けんと水で手を洗うと回答した生徒は42%にとどまり、その背景には、手を洗うことを忘れてしまう、水や手洗い設備がない、などの問題がありました。保健医療施設には手洗いの重要性やタイミングを理解している医療従事者が多かったものの、清潔な水が手に入らないことが手洗い実践の障壁となっていることがわかりました。

## ●タンザニア

学校と保健医療施設の給水設備は故障しているものが多く、全体的に数が不足していました。また、ほとんどのトイレが国の基準を満たしておらず、水と石けんを備えた手洗い設備も十分に整備されていませんでした。衛生習慣に関する調査では、16.9%の生徒が学校で手洗いをまったくしていないと回答し、その理由として「手洗いをする水がない」と答えた生徒が半数にのぼりました。

ウォーターエイドは、これまでの経験と今回の調査から得た情報をもとに、デザインの専門家、ソーシャルメディアチーム、アーティスト、衛生行動変革の専門家・実務者などを加えたチームを形成し、手洗いをはじめとする衛生行動の変化を促すキャンペーンや啓発ツールの企画・開発を進めています。また、2022年2月にはマダガスカルの学校と保健医療施設において、さっそく給水設備とトイレ、手洗い設備の設置を開始しました。



WaterAid/ Mamy Ramparany

マンガミラ小学校に設置した手洗い設備の状況や水質を確認(マダガスカル・2022年度撮影)



WaterAid/ Mamy Ramparany

保健センターのトイレの利用状況を確認(マダガスカル)

### 活動紹介③

## インド

すべての人が安全な水を利用できるようにしくみを整え、モデル設備を設置



インドは近年、水不足が慢性化しており、6億人以上が「深刻な水不足」に直面していると言われています。干ばつによる水源の枯渇、水資源保全の遅れ、水道管や手押しポンプ式井戸といった給水設備の故障、ヒ素やフッ化物、海水による水質汚染など、さまざまな水問題が起きています。特に最近各地で地下水の急激な減少が顕著で、このままでは2030年までに飲料水が入手不能となるのは人口の約40%、5億人以上にのぼると予測されています。

この状況を受けて、インド政府は、2024年までにすべての農村部の家庭で水道を利用できるようにすると宣言し、各地で給水設備の設置・修復、雨水の貯留、地下水保全の取り組みを強化しています。本来、この取り組みを牽引するのは各村に設置された「村水衛生委員会」です。この委員会は、村の水・衛生に関する課題の把握・分析、住民参加型の改善計画の策定、予算の確保、計画の実施といった役割を担っています。ところが、実際にはこの委員会が機能していない、委員会が自分たちの役割を理解していない、計画を作成できない、どのような給水設備を作ればよいかわからないなどの理由から、村の水問題が解決されないケースが多くあります。ウォーターエイドはこうした状況を改善するため、村水衛生委員会を強化するとともに、地域に合った給水設備や雨水貯留設備を設置し、地下水を増やす取り組みを導入して、それを「モデル」として普及させる活動をインド各地で進めています。



毎日1時間以上歩いて水くみに行く女性たち



住んでいる村で水が得られないため、遠く離れた村から自転車で水を運んでくる住民たち



住民が使っていたが、干上がってしまった井戸

### ●マディヤ・プラデシュ州ダモー県の事例

インド中央部に位置するマディヤ・プラデシュ州ダモー県では、慢性的な干ばつと地下水の過剰利用による地下水枯渇、さらには既存の水道・井戸の故障や水質汚染によって、人々が安全な水を安定して利用することができません。にもかかわらず、村水衛生委員会が機能していないために、問題は解決されないままでした。

そこでウォーターエイドは、村水衛生委員会が役割を果たし、政府から予算を得て給水設備を導入できるようにするプロジェクトを実施しました。具体的には、ダモー県の15村を対象に、村水衛生委員会を結成または再結成して研修を実施。住民ボランティアグループに対しても、水質検査や地下水涵養、給水設備の維持管理・修理に関する研修・啓発を実施したうえで、村水衛生委員会と住民が中心となって給水設備の整備計画を策定できるよう支援しました。

計画を策定したこの15村のうち10村は政府の承認を取り付け、5村は2020年度中に政府の予算でパイプ給水システムが導入されて、981世帯が安全な水を利用できるようになりました。残る10村も2022年度にパイプ給水システムが導入される予定です。

気候変動による干ばつ・水不足の影響を軽減するためには、異なる種類の給水設備を混在させることや、地下水を増やす取り組みを推進するこ



水質検査のため給水設備の水を回収するボランティアメンバー



水質検査を実施するボランティアメンバー



コミュニティにおける水質検査の様子



水質検査の研修



高校に設置した雨水活用設備



建物の屋根を使った雨水活用設備

とも重要です。そのためウォーターエイドは、上記15村のなかから5村を「モデル」に選び、計10基の雨水活用設備も設置しました。

また、地域のボランティアメンバーが研修を受けて既存の給水設備で水質検査を実施したところ、汚染が多く見つかったため、住民たちが家庭排水の改善に取り組むことを決定。ウォーターエイドは浴室などから出る家庭排水を適切に処理しつつ、地下水涵養の役割も兼ねた「家庭排水用浸透ます」15基をモデル設置しました。

### ●各県に「モデル」を作り、他の地域に広めていく

オディシャ州デバガル県でも、パイプ給水システム、家庭排水用浸透ますなどを、この地域の「モデル」として設置しました。

このように、村水衛生委員会が計画を策定して政府から予算を確保し、給水システムを導入したという実績ができたことで、この一連のプロセスが「モデル」として他の村水衛生委員会や現地政府に共有され、雨水活用設備や家庭排水用浸透ますなどの設置とともに、他の地域にも広がっていくことが期待されます。

\*マディヤ・プラデシュ州ダモー県のプロジェクトはTOTO水環境基金のご支援で、また、オディシャ州デバガル県のプロジェクトは株式会社ガスパルのご寄付で実施しました。



各家庭の敷地内にパイプ給水システムが接続された



パイプ給水システムの送水用タンク

## 活動紹介④

# マダガスカル

持続可能かつ安全な水・衛生サービスへのユニバーサルアクセスを実現する



水源の湖で計画を確認するJIRAMAの土木技師、地形学者、技術者



完成した浄水施設

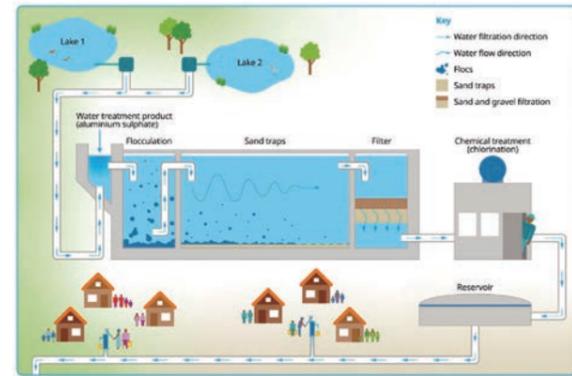
アフリカの南東海岸沖に位置する島国マダガスカルでは、住民のほぼ半数が清潔な水を使えず、10人中約9人が適切なトイレを使えません。命の危険にもつながる下痢性疾患が多く発生し、5歳未満の子供の約半数は栄養不良のため発育阻害の状態に陥っています。政府は清潔な水と適切なトイレを利用できるようにする計画を立てていますが、その計画を進めるだけの予算と能力が不足しています。さらに、気候変動の影響で水の確保がこれまで以上に難しくなっています。学校でも保健医療施設でも清潔な水とトイレが圧倒的に不足しており、28%の学校に適切なトイレがなく、63%の学校に、清潔な水を得ることができる給水設備がありません。

ウォーターエイドは、中央高地に位置する人口約27,000人のマンジャカンドリヤナ郡を対象地域に特定し、2019年～2022年の3年間にわたって水・衛生プロジェクトを実施しました。この地域の人々全員が村・学校・保健医療施設で清潔な水とトイレを利用し、衛生習慣を実践できるようになることを目指すと同時に、インフラ整備、維持管理トレーニング、しくみの構築などからなるこのプロジェクトが他の郡の「モデル」となるように、郡政府や国営水道会社 JIRAMA などと連携しながら水・衛生の課題に包括的に取り組みました。

## ● 湖を水源とする給水システムの建設

ウォーターエイドはマンジャカンドリヤナのインフラを整備するにあたり、この地域の起伏に富んだ地形に注目。町はずれにある2つの湖から電気ポンプで水をくみ上げ、浄水してタンクに貯め、そこから土地の高低差による重力を利用してコミュニティの水くみ場まで水を届けるという方法を採用しました。地形を利用したこの技術なら、維持管理の負担とランニングコストを抑えつつ、人々に清潔な水を届けることが可能です。

このインフラの建設は JIRAMA と協力して実施し、2つの湖から水をくみ上げるポンプ施設2基(湖1つにポンプ施設1基)、くみ上げた水をきれいにする浄水施設、400㎡の貯水槽、12kmにわたる水道管網を構築しました。途中、新型コロナウイルス感染症の影響で、建設工事を一時中断せざるをえない時期もありました。けれども、感染症の予防には手洗いが不可欠であり、水がなければ手洗いはできません。現地パートナーと連携しながら粘り強く作業を進め、共同水くみ場90基、ウォーターキオスク(水の売店)5か所を設置し、ポンプ施設とこれらの設備を水道管で接続することで、9村の8309人が清潔な水を利用できるようになりました。



給水システムのイメージ図



給水システムの水源



保健医療施設で建設中のトイレ棟

さらに、この給水システムから学校まで水道管を敷設し、学校内にも水くみ場と手洗い設備を設置。生徒たちが衛生的な環境で勉強することができ、トイレがないという理由で女子生徒たちが学校を休んだり中退したりせずにするように、8校に男女別のインクルーシブなトイレも建設しました。



完成した学校のトイレ。男女別、かつシャワーや手洗い設備が備わっている。

## ● コミュニティにおける衛生習慣の促進

ウォーターエイドは、清潔な水の供給とトイレの建設に加え、人々が継続して手洗いなどの衛生習慣を実践していくための活動にも取り組みました。

コミュニティから選ばれた18人の衛生推進担当を対象に、衛生習慣に関するトレーニングを実施したほか、特に直近6か月間は、衛生推進担当が使用するステッカーやゲームなど、衛生促進ツールの制作・活用を進めました。

ツールの制作にあってウォーターエイドが重視したのは、人々が衛生習慣を実践するうえでの動機です。「衛生習慣は重要です」と説明するだけでは、衛生習慣はなかなか定着しません。そこでウォーターエイドは、何が衛生習慣を変える動機となるのか一子供の将来への不安なのか、あるいは自分自身の快適さや社会的地位の向上なのか一を丁寧に聞き取って理解に努めました。その結果をふまえて制作したツールのひとつが、5枚の葉が描かれたステッカーです。5枚の葉はそれぞれ、①衛生的なトイレを使う、②手洗いをする、③清潔な水を利用し、清潔な水を慎重に保管する、④食品衛生、⑤月経衛生、といった衛生行動を表しています。このステッカーは各家庭で目立つ場所に貼られ、5つの衛生習慣がどの程度まで実践できているかを確認するのに役立てられています。



家に実際に掲示されている5つの葉のステッカー

## ● 水・衛生の持続性を高める

ウォーターエイドは、給水設備やトイレが適切に維持管理され、衛生習慣が持続してコミュニティに定着するような「しくみ」の構築にも取り組みました。

そのしくみのひとつが水・衛生の技術チーム「STEAH」です。ウォーターエイドはこのSTEAHと地方政府を対象にトレーニングを実施。参加者は、清潔な水を利用できる世帯数のデータを集めてシステムに登録し、登録データを分析して問題があれば解決の計画を立てるといったプロセスを学んで実践に役立てています。また、STEAHは、コミュニティの水・衛生課題に関する声や懸念をヒヤリングし、それが今後の給水・衛生設備の改善計画に反映されるよう、コミュニティと地方政府をつなぐ役割も期待されています。



## 日本の活動

ウォーターエイドは、水・衛生専門の NGO として、開発途上国の水・衛生に関する情報発信に力を入れています。



### スピーカークラブ

「ウォーターエイド・スピーカークラブ」はオリジナルの教材を使った授業を実施し、開発途上国の水・衛生の状況やウォーターエイドの活動への関心喚起を目的とする活動を2014年から続けています。ウォーターエイドが実施する「スピーカー講習会」(1日間)を受けて「スピーカー」になった皆さんが、ウォーターエイドのオリジナル教材・授業案を使用して、学校やイベントなどで授業を実施しています。

2021年度は「スピーカー講習会」をオンラインで3回、対面式で1回開催しました。特にオンラインによる「スピーカー講習会」は2021年度初めての試みでしたが、対面式では参加が難しかった遠隔地からも参加者が集まったため、今後も継続していく予定です。

講習会でファシリテーションやオリジナル教材の使い方を学んだメンバーは、その後もスピーカークラブの一員として活躍中です。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校やイベントで授業を行う機会は減少したものの、オンラインでの実施も含め、合計7名のスピーカーが小学校や高校で授業を行いました。スピーカーが実施した授業の受講者からは「募金やボランティア活動をしたい」「水問題を解決するために、もっと勉強して自分にできることをみつけたい」「世界の状況を多くの人に伝えたい」など、世界の課題解決に向けた前向きな感想が多く寄せられました。



日本鑄鉄管株式会社久喜工場でスピーカー講習会開催  
ダクタイル鑄鉄管など水インフラを支える製品を製造する同社。ご寄付に加えて、従業員参加型の活動に関心をお寄せくださったため、同社従業員13名の方を対象としたスピーカー講習会を開催しました。

### 墨田区水の循環講座

ウォーターエイドジャパンが事務所を置く東京都墨田区は、雨水活用が活発に行われるなど、水への関心が高い地域です。ウォーターエイドジャパンは2016年度以来、毎年、同区から委託を受けて「墨田区水の循環講座」の企画・運営を担当しています。2021年度は、感染症対策を行いながら計4回の講座を実施。東京2020オリンピック・パラリンピック競技会場を船で巡ったり、東京都水道歴史館を見学したりしたほか、初めてオンライン参加と会場からの参加を組み合わせ「ハイブリッド式」のセミナー型講座も実施しました。



墨田区水の循環講座(第1回)

### 東京栄養サミット2021 公式サイドイベント

2020年以降の新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、ウォーターエイドは各国で、手洗いなどの衛生習慣の促進、そして保健医療施設の水・衛生の改善をアドボカシーの優先分野に位置づけてきました。2021年12月には、日本政府主催の「東京栄養サミット2021」で、公式サイドイベントのウェビナー「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)達成に向けた取り組みの一環として、栄養と水・衛生を実践的に統合するには？」を開催。南博・内閣官房 健康・医療戦略室次長 兼 広報外交担当日本政府代表・大使やエチオピア保健省衛生・環境保健局長のエクラム・レドワンさんが登壇したほか、ウォーターエイドのマライとインドのスタッフが、各国の保健、栄養と水・衛生の連携の必要性について強調しました。



WaterAid Japan

### 国際デーの取り組み

#### 10月15日 世界手洗いの日 「#あわあわハイタッチ」キャンペーン

世界には、自宅に水と石けんを使って手を洗える設備のない人々が23億人います。ウォーターエイドジャパンは、世界手洗いの日に「#あわあわハイタッチ」キャンペーンを実施しました。石けんで「あわあわ」になった手を広げて撮った写真をSNSに投稿し、オンライン上でハイタッチの輪を広げるとこの取り組みに、多くの方々にご参加いただき、手洗い習慣の重要性をあらためて広く訴える機会となりました。



ソーシャルメディアに投稿した「#あわあわハイタッチ」の呼びかけ

#### 3月22日 世界水の日 「Blue for Water」キャンペーン

ウォーターエイドジャパンは、世界水の日に向けて、世界を青く染めることで水問題への関心を高めることを目的としたキャンペーン、「#Blue4Water(ブルー・フォー・ウォーター)」を毎年行っています。2021年度は、過去最多となる全国10か所の企業や自治体より、建物のブルーライトアップにご賛同いただきました。電力需要ひっ迫警報の影響で3か所の施設では急遽中止となりましたが、日本各地のランドマーク7か所が青く染まりました。また、SNSでは多くの青い画像や青いものを身につけた写真が投稿され、世界水の日が盛り上がりました。



ブルーにライトアップされた駿府城翼櫓

#### ライトアップにご協力くださった施設

- さっぽろテレビ塔(北海道札幌市)
- 東北電力ネットワーク株式会社岩手支社  
マイクロ波無線鉄塔(岩手県盛岡市) ※当日中止
- アサヒグループ本社ビル(東京都墨田区) ※当日中止
- 東京ビッグサイト(東京国際展示場)(東京都江東区) ※当日中止
- 駿府城翼櫓(静岡県静岡市)
- 神戸ハーバーランドumieモザイク大観覧車(兵庫県神戸市)
- 海峡ゆめタワー(山口県下関市)
- 高松シンボルタワー(香川県高松市)
- 熊本城天守閣(熊本県熊本市)
- 別府タワー(大分県別府市)

### メディア掲載

2021年度は、世界トイレの日や世界水の日に、世界の水・衛生の現状を伝える報告書を公開・発信したほか、新型コロナウイルス感染症に関連して、開発途上国の水・衛生の現状を伝えました。下記は、2021年度のメディア掲載・出演の一部です。

7月	・産経ニュース他「すべての人が水・衛生にアクセス可能になることで、開発途上国の経済に数兆ドルをもたらすことが明らかに」 ・雑誌Story「『世界平和』を絵空事にしないために選んだ道」
8月	・TBSラジオ「スナックSDGs powered byみんな電力」出演
10月	・読売新聞オンライン他「10月15日は世界手洗いの日:110億ドルで世界の最貧層が家庭で石けんと水を使った手洗いを実践することが可能に」
11月	・読売新聞オンライン他「マダガスカル南部が直面する気候変動の影響 一水も食料もない現実」 ・東洋経済オンライン他「11月19日『世界トイレの日』に、報告書『衛生作業員:コロナ禍の最前線で人知れず働くエッセンシャルワーカー』を発表」
3月	・時事ドットコム他「アフリカの多くの国に、干ばつが発生しても5年間、人々が十分な量の飲み水を確保できる量の地下水があることが明らかに」

## 企業・団体との連携 ウォーターエイドを支えてくださった皆さま



2021年度も、ウォーターエイドは多くの企業・団体の皆さまと連携することにより、水とトイレ、衛生習慣へのアクセスを改善し、多くの人々の生活を変えることができました。皆さまの温かいご協力が心より感謝いたします。

- 朝日生命保険相互会社
- アスクル株式会社
- Water for All (Atlas Copco Group)
- アビームコンサルティング株式会社
- 株式会社うしやのなべちゃん
- エステー株式会社
- 株式会社N-Vision
- elastic 株式会社
- 株式会社エルビー
- 株式会社ガスパル
- かみひとねっとわーく京都〈事務局〉
- 株式会社キャリアビジョン
- 株式会社キュービックスコンサルティング
- 株式会社協和
- 栗田工業株式会社
- 株式会社ケイダッシュ
- 資生堂プロフェッショナル株式会社
- 株式会社セゾン情報システムズ
- タイガー魔法瓶株式会社
- 株式会社達心
- 株式会社電巧社
- 東京海上日動火災保険株式会社
- TOTO株式会社
- 株式会社ナック クリクラビジネスカンパニー
- 日本鑄鉄管株式会社
- 株式会社ネオス
- 株式会社ハリカ
- フローバル株式会社
- Mother's Industry 株式会社
- 医療法人社団マハロ会  
かみむら歯科・矯正歯科クリニック
- 株式会社MIZU SAPO
- 三井化学株式会社
- 有隣電気工業株式会社

### アビームコンサルティング株式会社

2013年より毎年ご寄付をいただいております。2021年度はインドのプロジェクトにご支援いただきました。2016年からは、ご寄付に加えてプロボノのご支援も開始。同社の本業であるコンサルティングを通じて、団体のセキュリティ戦略や広報などに関するアドバイスもいただいております。長年のご支援に対し、2022年1月、ウォーターエイド・イギリスの会長であるウェールズ公から「プレジデントアワード」が授与されました。



プレジデントアワードを受け取るアビームコンサルティング株式会社の皆さまとウォーターエイドジャパン高橋

### アビームコンサルティング様よりコメント

2013年から続く様々な活動を通して、ウォーターエイドジャパン様の持つ社会課題に対する的確な現状認識と深い洞察に多くの気づきを得ることができ、アビームコンサルティングの共創のパートナーとしてなくてはならない存在となっています。この度名誉ある「プレジデントアワード」を頂いたことで今後さらにこの関係が強化されていくことを願っています。

### 株式会社ナック クリクラビジネスカンパニー

2016年、宅配水サービス「クリクラ」で、利用者が貯めたポイントを使う際の交換先として「ウォーターエイドへの寄付」を加えていただきました。毎月多くの方々にウォーターエイドへの寄付を選んでいただいております。ウォーターエイドではそのご寄付を各地の水・衛生プロジェクトに大切に使用させていただいております。

### 株式会社ナック クリクラビジネスカンパニー様よりコメント

世界には、バケツ1杯の水を手に入れるために、人々が生活を犠牲にしなければならないほどの地域が多数あります。そんな地域へ支援活動を行い続けているウォーターエイド様の活動理念に賛同し、クリクラはポイントから寄付できる取り組みを2016年から続けています。ポイント交換商品として、1口500ポイント(1ポイント=1円相当)として、相当額を寄付させていただいております。ポイント商品とすることで、お客様が積極的に寄付に参加いただけるようにしています。これからも微力ではありますが、協力させていただきます。

### エステー株式会社・アスクル株式会社

消臭芳香剤等の生活日用品を製造・販売するエステー株式会社と、事業所向け通販サービス「ASKUL」や一般消費者向け通販サービス「LOHACO」を展開するアスクル株式会社が、2社共同で「空気や水の環境を考えるプロジェクト」を実施。商品売上の一部をウォーターエイドにご寄付くださいました。対象商品は、「エステー トイレの消臭剤」をはじめとする12商品。いただいたご寄付は、インド オディシャ州バドラック県の保健医療施設におけるトイレと手洗い設備の設置に使わせていただきました。

### 株式会社エルビー



株式会社エルビーのTwitter投稿

2017年度から継続してウォーターエイドの活動にご寄付いただいております。2021年度は、「大人の紅茶」シリーズと無糖茶「香りごこち」シリーズのパッケージ側面にウォーターエイドの活動紹介を掲載。商品を通じて多くの方々にウォーターエイドを知っていただくきっかけとなりました。2021年3月からは、水に関するコラムとウォーターエイドの紹介を毎月第3水曜日にTwitterで発信していただいております。



株式会社エルビー

### エルビー様よりコメント

当社では「ウェルビーイング」を掲げており、一人ひとりの幸せ、お客様の幸せ、社会(地球)の幸せを実現したいと考えています。当社の商品は、水やお茶、果汁などの「自然の恵み」から作られているため、水とかかわりの深い会社として、ウォーターエイドの取り組みを支援することはとても重要と感じています。2017年から支援を開始しており、パッケージやSNSでウォーターエイドを広める活動を行っています。これからもウォーターエイドの支援を継続いたします。

### 寄付型自動販売機によるご寄付

特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会のご協力のもと、自動販売機の売り上げがウォーターエイドへの寄付につながる「寄付型自動販売機」をますます多くの企業が導入していただいております。その数は全国で48台(2022年3月末時点)になりました。

### 寄付型自動販売機を通じたご支援の一例

#### 株式会社バカン

商業施設やオフィスビルなどに設置されているトイレの混雑抑止メディアサービス「VACAN AirKnock Ads」の個室内のタブレットを活用し、ウォーターエイドの活動紹介映像を配信していただいております。2022年4月、同社の本社内に寄付型自動販売機を設置していただきました。



特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会

ウォーターエイドジャパンの寄付型自動販売機イメージ

### 株式会社ガスパル

LPガスの販売等を展開する株式会社ガスパルは、経営理念に合致した従業員の行動を「理念行動」として認定する社内制度(理念行動推薦制度)を実施しています。2021年、前年度にガスパルグループで認定された「理念行動」計118件について、1件につき1万円をインド オディシャ州デバガル県の水・衛生プロジェクトにご寄付いただきました。また、インドで新型コロナウイルス感染症が大流行したことを受けて、同感染症対応の活動にもご支援いただきました。

### 栗田工業株式会社

水処理事業を営む栗田工業株式会社は、水資源・公衆衛生に関する問題の改善を目的として、2019年から継続的にウォーターエイドの水・衛生プロジェクトをご支援いただいております。2020年と2021年はエスワティニ王国における水アクセス改善プロジェクトにご寄付いただき、2021年については新型コロナウイルス感染症の拡大防止に関する活動にもご支援いただきました。

### 株式会社N-Vision・株式会社MIZU SAPO

水まわりのトラブルを解決する「水道職人」「水のサポート」を運営している株式会社N-Visionと株式会社MIZU SAPO。「不要なものを活かし、生きるための活動に貢献できたら」とのお考えから、水道修理時に回収した廃鉄を資源として売却し、その資金をウォーターエイドに毎月ご寄付いただいております。家庭で使えなくなった水道管を世界の水・衛生の支援につなげ、お客様とじかに接する水まわりの修理を通して、その認識をお客様と共有するという好循環を生み出していただいております。

### 資生堂プロフェッショナル株式会社

資生堂プロフェッショナルのサロン専用トータルヘア&スカルプケアブランド「サブリミック」では、水の恵みを世界の人々と分かち合う活動「シェアウォータープロジェクト」を実施しています。サロンで良質なサービスを提供するには水が欠かせないことから、その大切な「水」の恵みを世界の人々と分かち合えるようにと、ウォーターエイドの活動にご支援いただきました。

# 2021 年度会計報告

## 活動計算書

収益		費用	
受取会費	35,000	事業費	
受取寄付金	167,916,368	広報・開発教育	11,047,132
受取助成金	58,980,365	アドボカシー	1,909,297
事業収益	3,361,804	水・衛生事業 / 募金	199,910,082
その他収益	362,604	管理費	6,803,923
合計	230,656,141	法人税等	70,000
		合計	219,740,434

## 貸借対照表

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金預金	71,335,474	未払金	7,827,250
未収入金	4,431,468	預り金	799,020
前払費用	109,084	未払法人税等	70,000
未収収益	1,000,000	負債合計	8,696,270
固定資産		正味財産の部	
敷金	1,683,000	前期繰越正味財産	58,952,049
保証金	5,000	当期正味財産増減額	10,915,707
資産合計	78,564,026	正味財産合計	69,867,756
		負債及び正味財産合計	78,564,026

ウォーターエイドジャパンは、2021年度の会計等について以下の監査を受けています。

- 監事による業務および会計の監査
- 高野寛之公認会計士事務所による財務諸表の監査

# ウォーターエイドジャパンについて

ウォーターエイドは、今から10年前の2012年、日本法人設立の準備を開始しました。2013年2月、ウォーターエイドジャパンとして、東京都より特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受けて、法人としての歩みを始めました。ウォーターエイドが日本法人を立ち上げた理由の1つに、日本が水・衛生分野において、世界で最大の援助供与国のひとつであることがあげられます。世界の水・衛生の改善に大きな役割を果たしてきた日本から、水・衛生の重要性について発信していく必要がある—そう考えて日本法人は設立されました。

## 概要

- 法人設立:2013年2月15日
- 認定NPO法人認定:2014年12月19日
  - \*ウォーターエイドジャパンにご寄付をいただく個人・法人の皆さまは、税制優遇を受けていただくことが可能です。
- 常勤職員数:4名

## 活動

- 世界の水・衛生問題について関心喚起をするための情報発信
- 世界の水・衛生問題に関するアドボカシー・政策提言
- 途上国における井戸建設、トイレ建設、衛生教育などの水・衛生事業、およびそのための募金活動

## ウォーターエイドジャパン 役員

### 理事長 小寺 清

元世界銀行・IMF 合同開発委員会事務局長、元国際協力機構(JICA)理事

### 副理事長 古米 弘明

中央大学 研究開発機構 機構教授

### 理事 青沼 愛

一般社団法人鎌倉サステナビリティ研究所 代表理事

### 理事 玉井 孝明

元東京海上ホールディングス株式会社取締役副社長

### 理事 夫馬 賢治

株式会社ニューラル代表取締役 CEO / 信州大学特任教授

### 理事 安江 真理子

公益財団法人 中曽根康弘世界平和研究所主任研究員

### 理事 山村 寛

中央大学理工学部人間総合理工学科教授

### 理事 和仁 亮裕

モリソン・フォスター法律事務所 弁護士

### 監事 岩本 昌子

岩本法律事務所 弁護士

(2022年6月30日現在)

ウォーターエイドの活動を支えているのは、皆さまからのご支援です。

## 毎月のご寄付(定額)

毎月、ご指定の金融機関の口座またはクレジットカードから、一定額を継続してご寄付いただくことで、途上国の人々に清潔な水と適切なトイレを届けるための活動を長期的に支えていただけます。継続してご支援をいただく皆さまには、ニューズレター「Oasis」(年3回発行)や年次報告書をお送りします。

初めてウォーターエイドジャパンへご寄付いただく方で、郵便局の払込取扱票以外でお振込いただく場合は、お名前、ご住所をお知らせください。ご連絡のない場合は、領収書をお送りすることができません。ご了承ください。

## ■郵便振替によるご寄付

記号番号 00100-0-359375  
加入者名 ウォーターエイドジャパン

## ■金融機関からお振込によるご寄付

ゆうちょ銀行 〇〇八(ゼロゼロハチ)店  
普通 4057566  
特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン

## ■クレジットカード決済によるご寄付

毎月のご寄付、単発のご寄付がお選びいただけます。  
<https://www.wateraid.org/jp/get-involved/donation>





特定非営利活動法人  
ウォーターエイドジャパン(認定NPO法人)

〒130-0014 東京都墨田区亀沢2-12-11 PAX21 301号

Tel: 03-6240-2772 / Fax: 050-3488-2040

[www.wateraid.org](http://www.wateraid.org)

[f/WaterAidJapan](https://www.facebook.com/WaterAidJapan) [t/WaterAidJapan](https://twitter.com/WaterAidJapan) [i/wateraidjapan](https://www.instagram.com/wateraidjapan)

